

<平成28年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

埼玉県川越市立霞ヶ関東中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成28年4月～平成29年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 40校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間（50分）



2時限目
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施

※運動の時間と座学の時間間に10分の休憩時間があります。



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成28年9月20日 (火)
- 場 所 : 川越市立霞ヶ関東中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (37名)
- オリンピアン : 石野 枝里子 先生 (スケート・スピードスケート)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・石野先生から自己紹介をした後、今日の授業ではオリンピックについて学ぼうと目的を確認。
- ・運動、座学の時間を通して、「全力で取り組むこと、協力し合うこと、人の話をよく聞くこと」の3つを約束し、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・3チームに分かれて8の字跳びを実施。90秒間に跳ぶことができた回数を競う。全3回戦実施。
- ・記録を更新するために、作戦タイムを設け、「縄を短く持つ、縄をリズムカルに早く回す」等各チームごとに工夫点を話し合う。
- ・クラス全員と石野先生で大縄跳びに挑戦。

4. まとめ



- ・授業冒頭の3つの約束を守ることができたかを問いかけ、チーム内でお互いに声を掛け合っていたことがとてもよかったと伝える。
- ・次の座学の時間では更にオリンピックについて知ろうと予告し、運動の時間で感じたこと、考えたことを頭に入れたまま教室に戻るよう話し、授業終了。

■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・石野先生から改めて自己紹介をした後、石野先生の経験を紹介するので、オリンピックについて考えてみようという目的を再確認。トリノ大会の映像を見せながら競技や当時の心境について説明。オリンピックがスポーツを通して平和でよりよい世界を作ることと目的とした平和の祭典であることを説明し、オリンピックバリューを生きる上で大切な価値観であると伝える。

3. グループワーク



・日常生活の中で感じるオリンピックバリューについて個人で考えた後、学校生活をよりよいものにするためにオリンピックバリューをどのように活かせるかを各クラスごとに考え、代表者から意見を発表。
 ・ひとつの目標に向かって努力する（エクセレンス）、ミスをしてでも責めない、お互いに声をかけて励ましあう、アドバイスあって改善点を見つける（フレンドシップ）、礼儀をもって接する、お互いを認め合う（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・オリンピックバリューは選手だけのものではなく、みんなの日常生活にも当てはまることだと伝え、生活の中で意識して行動することで心身ともに成長してよりよい生活が送れるようになる話す。
 ・東京2020大会では選手として出場を目指すだけでなく、ボランティアやスタッフとして選手を支える、応援する立場でも関わってほしいと伝える。
 ・夢を叶え、人として成長するために、これから3つのオリンピックバリューを実践してほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成28年9月20日 (火)
- 場 所 : 川越市立霞ヶ関東中学校
- ク ラ ス : 2年3組 (38名)、2組 (37名)
- オリンピック : 荻原 健司 先生 (スキー・ノルディック複合)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・荻原先生からスキー競技 (ノルディック複合) の説明や競技を始めたきっかけを交えて自己紹介をした後、運動の時間ではそりリレーを実施するので、「全力で取り組む、チームワーク、フェアプレイ」を意識して、最後まで諦めず取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。

3. 主運動



・6班に分かれてそりリレーを実施。2人1組になり、ロープ2本と土嚢袋を使い、引っ張る人がロープ2本の端を手で持ち、そりに乗る人は反対側のロープの端を持ち、足をしっかり閉じて、袋の上に屈む。1班につき3ペアを作って各ペア2周し。全員がゴールするまでの速さを競う。全2回実施。

4. まとめ



・各班に工夫した点を尋ね、うまくいったことも失敗したこともあったが、実践してみないとわからないことがあり、勝つために何が必要かを考えることが大切だと伝える。次の座学の時間では、更にオリンピックについて学ぼうと予告し、授業終了。



■授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・荻原先生から改めて自己紹介をした後、オリンピックとは何かを考えようと目的を確認。

2. オリンピックの価値を伝える



・「オリンピックシンボルの意味は？」、「日本で開催されたオリンピック 競技大会は東京2020大会で何回目？」、「クーベルタンはなぜオリンピックを復興させたのか？」等、スライドを用いてオリンピックにまつわるクイズを出題し、オリンピックバリューについて説明。

4. まとめ



- ・オリンピックは単に世界一を決めるスポーツ大会ではなく、平和への願いが込められていると話す。2018年の平昌大会や2020年の東京大会も、競技の成績だけでなく、オリンピックバリューを意識しながら見てほしいと伝える。
- ・楽しく取り組むことががんばるための一番の原点だと話し、夢や目標に向かって楽しみながら挑戦してほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真

2年1組



2年2組





■ 集合写真
2年3組



■ 記念品贈呈

■ 2年1組



■ 2年2組



■ 2年3組



■ 証明書贈呈

